

以西の魅力大発見!

船上小は、以西・安田・成美の3地区の小学校が統合してできた学校で、毎年その3地区を順番に遠足で訪れて地域への理解を深めている。本年度は、開校以来3回目となる以西地区の遠足だった。そこで、以西地区の良さを取材し、学校新聞に載せようと6年生児童が記事にまとめた。

船上小新聞

学校概要



【校名】 琴浦町立船上小学校
 【所在地】 東伯郡琴浦町佐崎16
 【校長】 久米 康
 【児童数】 127人
 【沿革】 平成26年4月、以西小・成美小・安田小が統合して開校

【教育目標】 人間尊重の精神を基盤として、自ら学び、心豊かにたくましく今を生き、未来を拓く子どもを育成。笑顔がふれ心はずむ学校、自ら考える子。



Newspaper in Education

水道水 どこから来ているの



荒井さん右から水源地の説明を聞く児童

大父木地水源地

琴浦町役場分庁舎 上下水道課の荒井さんに聞く

私たちはいつも水を使っている。琴浦町で使う水道水はどこから来ているのかを調べようと6月1日、6年生の児童4人が船上小で、同町役場分庁舎の上下水道課長 荒井猛さんから話を聞いた。町内には17カ所の水源地があるが、以西地区の「大父木地水源地」(同町大父)は、2010年3月に給水を開始した新しい水源地だ。ここでくみ上げた地下水は、町内赤碕地域の大部分の給水を担っている。荒井さんによると、地下水なのでとてもきれいだが、さらに安全な水にするために塩素で消毒し、水質検査を行っている。船上小では毎年4年生が同水源地を訪れ、現地を見学して水道への理解を深めている。水を大切にすることで私たちにできそうなことは「ごみを捨てない」「ごみを拾う」「水を大事に使う」ことだと話す荒井さん。これはSDGsの⑥「安全な水とトイレを世界中に」と⑩「住み続けられるまちづくり」にも関係している。荒井さんは仕事について「みんなが安心して使える水を送ることを大切にしている」と語った。「水を安心して使っているのは、当たり前ではないので、大切にしていかなければならない」と、6年の西永瑠佑己さんは感想を述べた。(西永瑠佑己、真山すみれ、高力奈々、小椋桃羽)

4年生当時、大父木地水源地を見学して大きさを実感する現在の6年生

和牛の飼育

高力さんの牛舎を訪問



遠足時に牛舎で高力さんから話を聞く児童ら

以西地区では黒毛和牛の飼育が盛んだ。船上小の児童は5月の遠足で、琴浦町大熊の繁殖農家、高力和美さんの牛舎を訪れた。6年生は6月1日

さまざまな世話が必要

「高力さんは「人間の子どもと同じように、愛情をもって元気で大きな牛に育てるように心がけている」と話した。(前田絆愛、大和早織、石賀湊大、三上大雅)

日、高力さんから飼育の苦労や工夫を聞いた。牛の世話には、えさやりだけではなく、体調管理や施設の整備、人工授精、出産などさまざまな作業がある。メスの牛は1年に1度出産する。生まれた子牛は9カ月で約270kgほどになり、せりにかけられる。オスは肉になり、メスは繁殖のために買い取られる。そのため、牛の体調管理が大切だ。体調管理のためにワクチンも打っている。牛のふんからも体調を探り管理する。また、牛が気持ちよく過ごせるよう、床におがくずを敷き、ふん尿でぬれたら替えている。牛舎の建物にも工夫がある。夏には風通しを良くするため換気扇を回したり、牛の様子をカメラで映したりして離れていても様子が分かるようにしている。人工授精では、メスの発情を見逃さないよう観察して、丁寧にやっている。高力さんは「人間の子どもと同じように、愛情をもって元気で大きな牛に育てるように心がけている」と話した。

以西地区には、室町時代に創建された「清元院」(琴浦町宮木)という曹洞宗のお寺がある。6年生が清元院住職の井上英之さんにインタビューした。大仏山の城主・池田定久が合戦に負け、旧以西小近くの高木家にかくまわれて、婿になったが池田姓を名乗った。その時に、合戦で命を落とした家来と高木家の先祖の霊を弔うために清元院は建立された。同院は大仏山の城から見下ろせる向かいの山すそに建てられ、先

清元院 井上住職に聞く

先祖を大切にしたい 思いが詰まった寺



雑巾がけリレーをする児童

祖を大切にしたいという思いが詰まったお寺だ。本堂の天井は水墨画で龍が描かれ、玉雲斎作の龍図として今もきれいに残っている。本堂は住職が仏に代わって仏法を説き示す場所として、寺院の中で最も重要な場所である。龍はそこを守護する役割を果たしており、雲を呼び、雨を降らすといわれていることから、本堂に集まった人々に仏法の雨が降り注ぐようにとの願いを込めて描かれているという。

また、同院は教育の寺で、江戸時代には住職が師となり寺子屋として、1873年からは学制発布により今地小(後の以西小)として教育の役割を果たしてきた。船上小の1年生は毎年、清元院を訪れ座禅の体験をする。3年に一度は遠足で全校児童が訪れ、縦割り班ごとに雑巾がけリレーを行っている。昔も今も学校と関わりが深い寺である。(沢田叶、西長磨人、小椋尊、仲佐勇真、森下夢子)

「船上山」の自然

「船上山少年自然の家」山下係長に聞く



船上山について話す山下さん。奥に見えるのが屏風岩

要塞のような屏風岩、幻の滝も

琴浦町のシンボルの一つで、校区にある「船上山の自然について調べよう」と船上小の6年生7人が6月1日、同町山川の「船上山少年自然の家」を訪れて、山下孝治係長に話を聞いた。船上山の魅力を紹介する。まずは滝だ。雄滝、雌滝、鱒返しの滝、さぼし滝などがある。中でも、さぼし滝は幻の滝といわれており、山下係長でさえ見たことがないという。この滝は、高さ32m、幅10mもあるそうだ。次に紹介するのは、船上山の特徴的な屏風岩だ。これは、大山の噴火によって形成され、雨や風によって削られて現在のようになり、屏風岩の岩石は両輝石安山岩でできているという。この屏風岩は、天然の要塞のようになっている。合戦の時は攻めにいく、守りやすい。そのため船上山は、後醍醐天皇が1333年に、伯耆国の武将だった名和長年と共に、鎌倉幕府軍との間で起こった元弘の乱において立てこもり、戦に勝った古戦場でもある。6年の御崎翔星さんは「これからの時代を見守り、新たな歴史を築く船上山を大切にしていきたい」と話した。(御崎翔星、高野結叶、福本真基、久保星輝、生越暖士、足立昂、高見華奈)

編集後記

6年生は、学校新聞の発行と大型共同書道に毎年取り組んでいる。学校新聞では、以西地区の取材を通じて、私たちの校区にあるさまざまな魅力に改めて気づくことができました。



学校新聞作りと共同書道に取り組んだ6年生

共同書道は、山田美鈴先生に教えていただきながら協力して書き上げた作品で、6年生としてなりたい姿を話し合い、自分たちで言葉を考えて書いた作品である。どちらも船上小6年生の伝統として続けてほしい。(福本美丘)

柴尾神社 後醍醐天皇が戦勝祈願

池山宮司に聞く



以西地区の琴浦町山川にある柴尾神社を6月1日、船上小6年の児童6人が訪れ、同神社の宮司、池山宣昭さん(65)から、神社についての話を聞いた。池山宮司によると、同神社は678年に建てられたとされ、後醍醐天皇が戦勝祈願をしたと伝わる歴史ある神社だ。同神社では7柱の神様を祭っている。その中の男神「イサナギ」と女神「イサナヒメ」は、日本や多くの神様を作った神様だという。今年、神社の屋根の修理が終わったので、5月には「浦安の舞」を奉納して祝祭をしたそうだ。「歴史ある柴尾神社をこれからも大切にしたい」と池山宮司は語った。(永田咲彩、高塚七色、真山心那、西田奏音、内山伊貴、村本詩葉)